

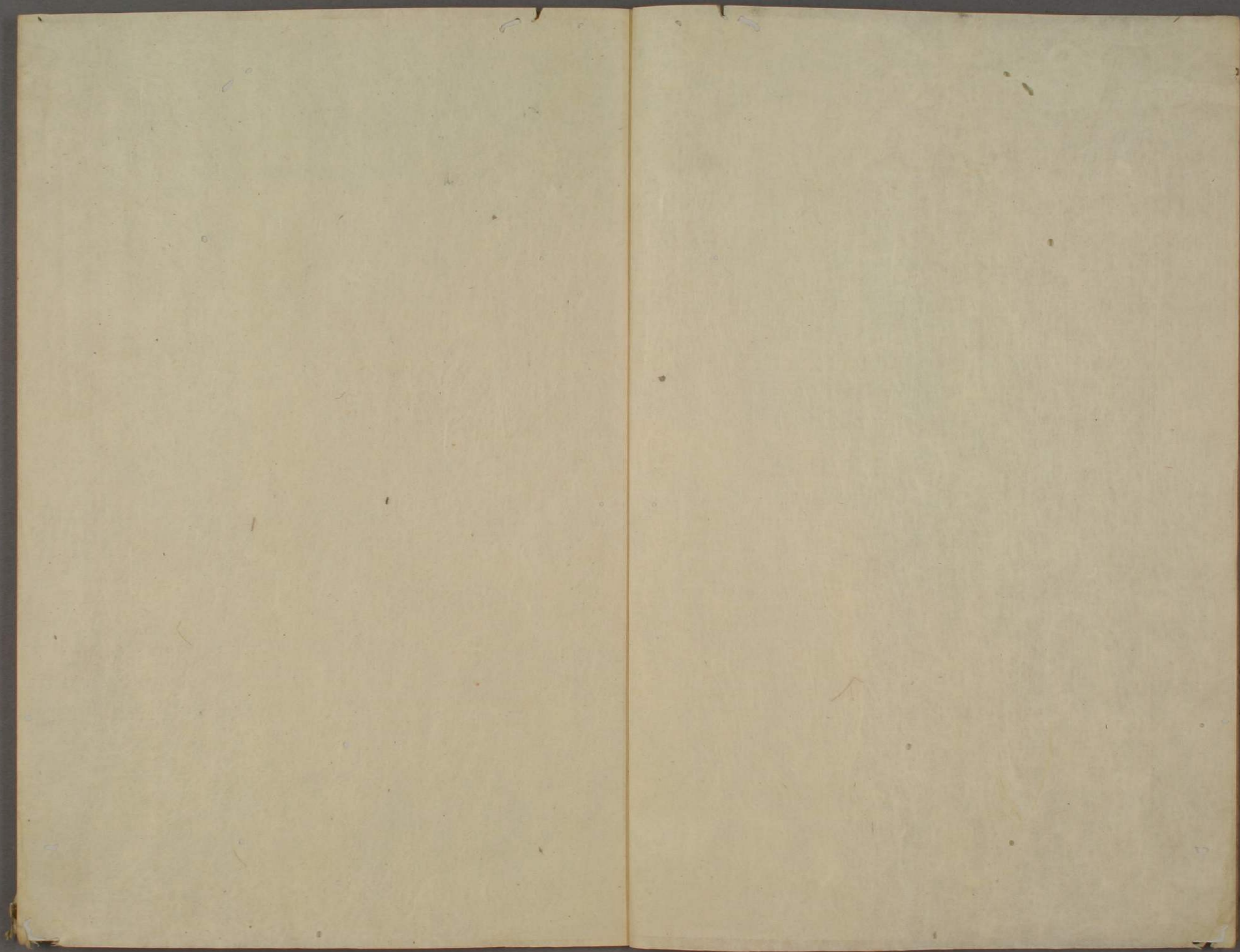


實効公集

特別  
^ 2  
4867  
11













みづのあはれなる川に流るる水は清くついでに濁るるやまの村にまはるる

風

なみの川にまはるる水は清くついでに濁るるやまの村にまはるる

嵐

ついでに濁るる水は清くついでに濁るるやまの村にまはるる

泰山殿苗社五首の云 山家夕嵐

吹雪のふり乃嵐の山本小軒とありく夕嵐の山

朝雲

出づぬ影を南小ほくついでに濁るるやまの村にまはるる

晴

山陽のよき水は清くついでに濁るるやまの村にまはるる

山

雲の影を南小ほくついでに濁るるやまの村にまはるる

海邊

若子とまはるる水は清くついでに濁るるやまの村にまはるる

若所晴

晴くついでに濁るる水は清くついでに濁るるやまの村にまはるる

河



ふくすのくさくさあふららうの河原さうらうわがわらう人

測

ちのほのこけもいぬの山に河乃原すこわくる谷のこゝあ化

様

様衣かきぬの袖乃露くくはぬもわたりまもつとつ  
物あま乃山分あまぬたこる深き想らわ音のありに

秋 様

路からこたすくまもぬほるくにあまのいぬさうら音乃下乃

様 宿 業 夜

思ひ初は初めりうきまの初りさぬのよりの着はゆきい

山 路

初後山の初れともまもつとて風の来はたまたま

山 路 未 遠

かつりまぬ花の都は林原のくつとさぬの露のまもはひけさ

松

喜こと清源ま枝乃のせみまをわつきの松はよりのしん

ありまふゆのつらまよふをんゆ

何とてらわらぬ谷のこゝまお松をうらこを初ぬりけさ



楠

新らしき木はよき木なるをくわすはよき木なるをくわす

里竹

山より山の煙いふいとよき木なるをくわすはよき木なるをくわす

立橋

乃と水はよき木なるをくわすはよき木なるをくわす

鷺

山田のふりてはよき木なるをくわすはよき木なるをくわす

嘉元二年四月七日 持明院 院内 幸 山

苗在の寺合夕鳥

言わすの以祖の社乃下枝よゆふつとくらのいむをゆりけ

鴨

みづのまらやけさ明のころ月をを鳴きあさあま

鳥

うよまはれやめりて乃奏すまをいりなくはけはありま

舟

舟はよき木なるをくわすはよき木なるをくわす

風帆



浪のよぶ乃きとをまらつゝあ乃昔は人衆あはれを思ふ  
遠川かきた何をもつゝあめのかたきまはる風りかた

夕鐘

吹のよむの風はあつたふせりあめ入あひあふ

古寺鐘

日よつたあつゝあめりあもつ子乃ひあつた

笛

あめりああつたあめりああつたあつたあつた

琵琶

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

鼓

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

燈

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

寒夜灯

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

燈

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた







